

# じめがおか

東京都世田谷区歯科医師会会報

<http://www.setagaya-da.or.jp/>

III

2019

No. 178



英国の田舎の古いホテルにて

## 東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅ーL

下馬部会 斎 藤 賢 一

今回は宮崎県の「田の神」を見に行きます。宮崎県には歴史的に重要な石造物はあまりありませんが、特徴的な「田の神」を中心に見ていきたいと思います。

「田の神」は、冬は山の神となり、春は里において「田の神」となって田を守り、豊作をもたらすと信じられています。「田の神」信仰は、全国的な民俗行事として古来より農村に浸透していますが、「田の神」を石に刻み（田の神石像—田の神さあ）豊作を祈願する風習は、18世紀初めに始まる薩摩藩（鹿児島県・宮崎県）独特の文化です。田の神石像を地元では田の神さあ（タノカンサア）と親しみを込めて呼びます。この「田の神さあ」を見るために、宮崎県の田んぼ巡りをします。

田の神像の形には、様々な形があって実に変化に富んでいます。初期の頃は地蔵像など仏像、神像の姿でしたが、その後は持ち物や表情も農民の姿を表わすものが多く作られるようになりました。現在は大きく4つに分けられます。1つ目は一番古い形の自然石型で石造が造られる以前のもので、石そのものを神様とみなしたもの。風景と同化しているものが多く石が持つ自然の力を感じさせます。2つ目は地蔵型のもので最古の田の神像はこの形です。数としてはあまりありません。3つ目は神官型で束衣冠帶かそれに近い姿で手にシャクを持つものが多いです。霧島噴火の被害地方に多く宮崎県で始まったとされています。4つ目は農民型で一番多くシキ（笠）を被り、右手にメシゲ（シャモジ）、左手にお椀を持ちユニークに踊る神様です。「田の神さあ」と言わればこの形です。

この「田の神」にまつわる風習としては農家を次々に回って豊作を祈願する「回り田の神」の風習が今でも残っています。当番の家では、田の神像に化粧をし、ごちそうを作り大事に床の間にまつります。「田の神」は、春・秋交代で次の座元へ回っていきます。昔「平日、村で持ち寄り酒を飲む事」が禁止されていた時代、この日だけはお酒を飲んでも良かったそうで

す。従って彩色を施された「田の神さあ」が多く見受けられます。

「オットイ田の神」という風習は「田の神」を盗むことです。豊作の続く地方の田の神像を置くと、米が良くとれるようになるといわれたからです。また、田を新しく開田したところには「田の神」がないので、よその「田の神」を盗んだそうです。実際には、借りてくるのですが、盗まれたところは、盗んだところが返しに来るのを待っていました。盗んだ田の神像は3年以上置くと不作になるので、盗んだ集落では3年経ったらお礼として粉や焼酎、ニワトリなどを持って正装して楽器を鳴らしながら、にぎやかに田の神像を送っていきます。盗まれた村では、サカムケ（坂迎、酒迎）の準備をして待ち、合同で盛大な酒盛りをしたそうです。

レンタカーを借りて田の神巡りに出発です。まずは都城市へ行きます。1番古い上水流（1751）の「田の神」です（写-1）。田んぼを見つめています。神官型です。馬場の田の神は太平洋戦争中に作られたトーチカの上に乗っている農民型です（写-2）。大きなシキをかぶり、右手にメシゲ、左手に椀を持つ野良で働く農民です。古江の「田の神」は都城島津家発祥の



写-1 「都城市上水流の田の神」



写-2 「都城市馬場の田の神」



写-3 「都城市古江の田の神」



写-4 「都城市谷川の田の神」

地の「田の神」です。神官型と農民型の融合した形で白い羽織を着ています（写-3）。2番目に古い谷川の「田の神」は神官型です。衣冠束帶姿の腰掛け型で切れ長の目と筋の通った鼻、引き締まった口など端正な顔で宮崎を代表する「田の神」です（写-4）。加治屋の「田の神」はとても良い顔をしています。残念なことに下半身はコンクリートに埋め込まれているので全体像がわかりません（写-5）。珍しい舟形の石に半肉彫りをした「田の神」が2つあります。上西の「田の神」と関之尾自治公民館の「田の神」です。上西の「田の神」はメシゲと椀を持ち直立しています。

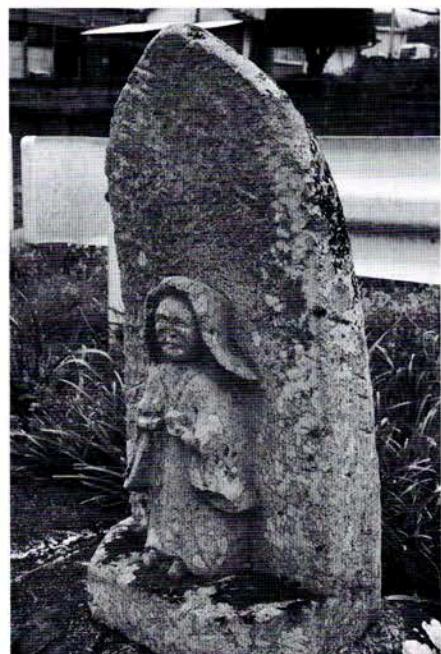


写-5 「都城市加治屋の田の神」

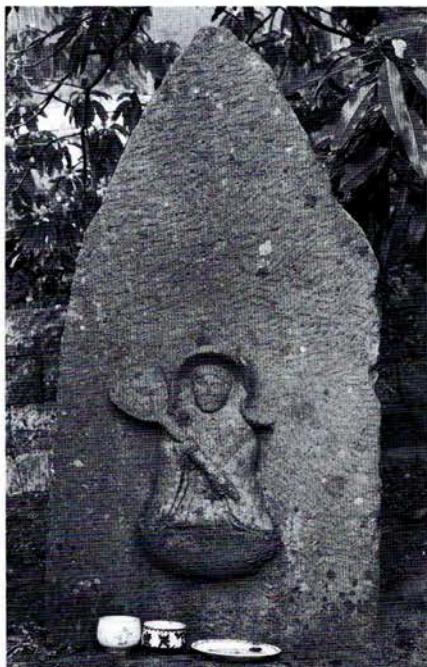
顔には満面の笑みを湛えています（写-6）。関之尾自治公民館の「田の神」は舟形の石の中央に大きなメシゲを胸の前でも持つ僧衣をきた田の神を半肉彫りにしたもので、蓮華座の上に立っています（写-7）。

都城市には見逃せない庚申碑があります。石山中方にあり石祠型庚申塔で屋根は千鳥破風入母屋型で破風の上に人面が彫刻されています（写-8）。内部に袴をつけ正装した青面金剛が彫刻され六臂でショケラの髪をつかんでいます（写-9）。外面に徳利と杯を持った祝言像（2童子）、礎石に三猿を彫った珍しいものでとても精巧です。

えびの市にはとても有名な「田の神」があります。末永の「田の神」です（写-10）。ボスターなどに使



写-6 「都城市上西の田の神」



写-7 「都城市関之尾  
自治公民館の田の神」



写-8 「都城市石山中方の庚申碑」



写-9 「都城市石山中方の庚申碑」



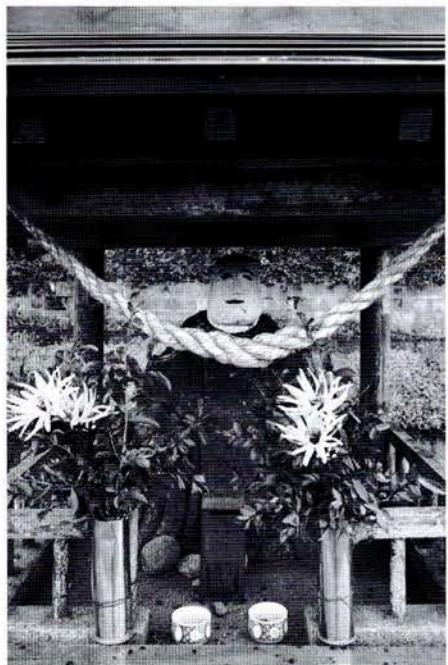
写-10 「えびの市末永の田の神」



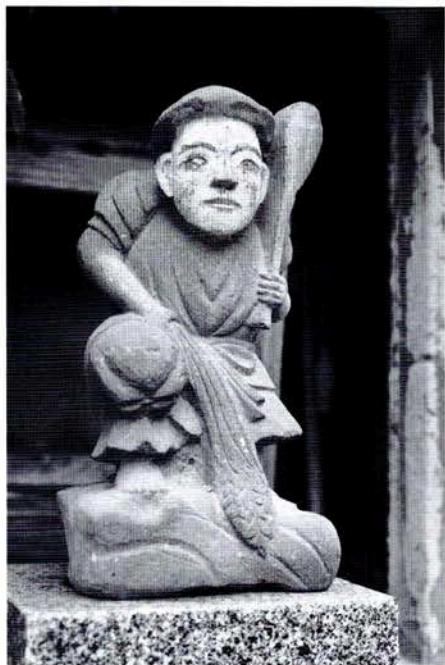
写-11 「えびの市吉田温泉の田の神」

われ人気者です。シキをはじめ全体が赤白黒の三色で強烈なインパクトを与えます。また顔の表情が素晴らしい。吉田温泉の「田の神」もいい味を出しています。とぼけた表情で寝間着姿で今起きてきたようです（写-11）。手が欠損しているのが惜しまれます。「オットイ田の神」で大正時代に他の場所から盗んできたものだそうです。中島の「田の神」はえびの市で一番古い田の神です（写-12）。立派な小屋を作ってもらって嬉しそうです。神官型で下ぶくれが可愛い像です。湯田新田の「田の神」は小屋の中に入っています。

いるので保存状態が素晴らしいです（写-13）。稲穂とメシゲを持っています。2番目に古いのは内堅梅木の「田の神」です（写-14）。千代反田の「田の神」も一度見たら忘れられません（写-15）。西長江浦の集落にある祠に大事に安置されています。赤く染色され、大きなメシゲを持ちシキが髪の毛のようなので女性に見えます。



写-12 「えびの市中島の田の神」



写-13 「えびの市湯田新田の田の神」



写-15 「えびの市千代反田の田の神」



写-14 「えびの市内豎梅木の田の神」

小林市には宮崎県で1番古い新田場の「田の神」があります（写-16）。神官型で牡丹の花が彫刻された台座の上に椅子の様なものに腰掛けています。左手首が欠けてしまったのが残念です。大丸の「田の神」は典型的な農民型です（写-17）。立膝でメシゲと椀を持っています。仲間の「田の神」もとてもインパクトの強い像です（写-18）。向かい合う猿が彫刻された台座の上に立ち、頭には大黒帽をかぶり、右手に杓子、左手に御幣を持っています。全体に朱色に塗られています。松元の「田の神」はシキをかぶり、右手にメシゲ、左手に杓を抱え、かがみこんで今にも田の舞を踊り出しそうです（写-19）。

小林市の浜瀬川には巨大な男根の形をした自然石と女陰の形をした岩があり「陰陽石」と呼ばれています（写-20）。ここに付属した展示場には100体ほどの田の神が並んでいます。ほとんどが30cmほどの農民型の田の神です。木彫の男根などが

置いてあり秘宝館のムードが漂うちょっと危ない展示場です。小林市には鎌倉時代後期の東麓石窟仏という磨崖仏があります。国道の下の薄暗い洞穴に薬師三尊と十二神将そして僧と尼僧の17体が彫られています（写-21）。とても素晴らしい出来です。

今回は薩摩藩の領土であった宮崎県の南西部の「田の神」を見学しました。その結果、鹿児島県で多く見られる農民型の「田の神」はもちろんですが、神官型



写-16 「小林市新田場の田の神」

の「田の神」がたくさん見られました。神官型の「田の神」は小林市が発祥と言われています。田んぼと「田の神」は鹿児島・宮崎の原風景です。この美しい風景が続くことを祈ってやみません。

東京では池袋の東口駅前公園に「田の神」が並んでいますよ。

宮崎県の石造物の写真はホームページでご覧いただけます

[www.ravana.jp Kyushu](http://www.ravana.jp/Kyushu)→宮崎



写-17 「小林市大丸の田の神」



写-18 「小林市仲間の田の神」



写-19 「小林市松元の上の田の神」



写-20 「小林市陰陽石」



写-21 「小林市東麓石窟仏」